

週報みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

第 24 回全国青年・女性漁業者交流大会
農林水産大臣賞、水産庁長官賞受賞！
—2/28～3/1 グランドアーク半蔵門 (東京) —



2 月 28 日 (木) から 3 月 1 日 (金)、
グランドアーク半蔵門 (東京) にて、「第
24 回全国青年・女性漁業者交流大会」
が開催された。

三重県からは、1 月 12 日 (土) 松阪
庁舎にて開催された、「平成 30 年度三
重県青年・女性漁業者交流大会」で選ば
れた、四日市市漁協・富洲原支所市場運
営グループ (代表者：伊藤幸子氏) と鳥
羽磯部漁協・答志黒海苔養殖研究会 (発
表者：川原栄策氏) が発表を行った。

富洲原支所市場運営グループは「産地
市場の自主運営について」の発表を行い、
今大会最優秀賞である農林水産大臣賞
を受賞した。同賞は他に、合志津川支所
カキ部会 (宮城) が「持続可能で高品質
なマガキの養殖生産」で、(有) 昌徳丸

(鹿児島) が「定置網漁業の持続的な漁
業経営について」、ひやま漁協ナマコ協
議会 (北海道) が「乾燥ナマコのブラン
ド化について」、さらに横浜市漁協 (神
奈川) が「横浜ベイサイドマリーナにお
けるアマモ場再生」でそれぞれ受賞をし
ている。答志黒海苔養殖研究会は「黒ノ
リ養殖 未来への道筋—答志黒ノリ漁
師の働き方改革—」について発表を行い、
水産庁長官賞を受賞した。

平成 30 年度
地域・活動組織等関係者会議
—2/26(火) フレックスホテル(松阪)—



2 月 26 日 (火)、フレックスホテル (松
阪) にて、水産多面的機能発揮対策事業
「平成 30 年度地域・活動組織等関係者
会議」を開催し、各活動組織担当者、漁
協・関係団体職員、県・市町担当者ら約
65 名が参加した。

事務局と県担当者から、①「平成 30 年度事業報告に係る事務手続きについて」②「平成 31 年度事業について」③「会計検査院による会計実施検査について」④「災害時における事業の活用について」⑤「事業推進時の安全確保に関する注意喚起について」⑥「【情報提供】磯焼け対策ガイドラインの活用について」の説明を行った。

その後、各活動組織担当者から、今年度の取組状況報告が行われ、活動の成果と課題の発表が行われた。各活動組織の活動内容について意見交換をする場となり、来年度の活動に向けて弾みをつけるものとなった。

**平成 30 年度
磯焼け対策全国協議会
—2/22 (金) 三田共用会議所 (東京) —**



2 月 22 日 (金)、三田共用会議所 (東京) にて、「平成 30 年度磯焼け対策全国協議会」が開催された。

議事次第①として【各地域からの報告】が行われ、三重県からは鳥羽磯部漁協答志支所の濱口輝満氏が「鳥羽市答志のアラメ海中林の再生に向けて」につい

て報告を行った。その他に、佐賀県が「佐賀県玄海地区の藻場の現状と対策」、静岡県が「伊豆のガンガゼ採補」、富山県が「磯焼け対策構成員のモチベーションを上げる工夫と教育について」、神奈川県が「キャベツでムラサキウニを育てる!」、長崎県が「植食性魚類の商品化の試み」について報告を行った。

議事次第②として【磯焼け対策ガイドラインの改正に向けた取組について】を水産庁と各大学・国立研究機関の先生方より発表が行われた。

その後、議事次第③として【パネルディスカッション「海水温の上昇と磯焼け対策」】が行われた。各大学・国立研究機関の先生方が出席者の質問に対して、討論をする形式がとられており、身近な内容が多く、分かりやすいものとなっていた。

改めて、磯焼け対策には地域が連携し、継続していくことが必要不可欠であることを再認識する結果となった。

【主な予定】

○3 月 12 日 (火)

・三重県アサリ協議会 (松阪)

○3 月 16 日 (土)

・早田ブリ祭り (尾鷲)

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。